

国語科学習指導案

指導者

- 1 日時 平成13年1月31日(水) 第5校時
- 2 学年 第5学年 男子19人 女子12人 計31人
- 3 単元名 身近な生活について考えよう
- 4 教材名 インスタント食品とわたしたちの生活
- 5 単元の主目標

読んだり聞いたりした内容について、そこで述べられている事柄を正確につかむ。
身近な問題について、理由や根拠を明確にして討論する。

観点別目標

身近な問題について、意欲的に調べたり考えをまとめたりする。

(国語への関心・意欲・態度)

理由や根拠を明確にし、観点ごとに整理して話したり書いたりする。

(話す・聞く力)(書く力)

読んだり聞いたりする内容について、自分の立場から再構成する。

(読む力)

6 教材及び児童の実態

本単元は、教材文をきっかけにして身近な生活の中から問題点を挙げ、いろいろな方法で調べたことをもとに討論(ディベート)を行うことによって、考えを深めていくことをねらっている。

「インスタント食品」は、いまや生活に欠かせないものである。子どもたちにとっても、手軽に調理ができ、味もバラエティーに富んでいて、人気が高い食品である。しかし、そのインスタント食品の誕生の由来や問題点については、今まで考えたことがないように思う。その点で、この教材文は、児童が自分の生活を振り返りながら、親しみをもって興味深く読み進めていけると考える。

また、文章構成が典型的で明瞭であることも児童の学習活動のよりどころとして活用しやすい。教材文は、～の小段落(形式段落)から構成されており、それらは四つの大きなまとまり(意味段落)に分けることができる。㊦ 話題提起、㊧ インスタント食品の良さ、㊨ インスタント食品の

問題点、㊩ まとめと主張である。この典型的な説明文の構成により、児童は筆者の論の展開を自力で読み取ることが容易になり、叙述の工夫にも目を向けていくことができる。従って、文章構成の分析は、指導計画の始めに位置付け、見通しを持って読み取りをしたり、自分の文章に生かしたりさせたいと考えている。

次に、筆者が説得力のある文章にするために下記のような様々な叙述の工夫をしていて、それが自分たちの後の学習であるディベートの中で生かせるという特徴がある。

例えば、「なぜ、...、なぜ、...でしょう。」と疑問を投げかけてから「...のです。」と答える強調の仕方。また、「ところで」「また」「さらに」と順序よく、しかもより自分の論の正しさを強調していくように積み上げる接続詞の使い方。「一つ目は...。」「二つ目は...。」「三つ目は...。」のナンバリングの方法。昔と現在などの対比の表現。「...ように思えます。しかし、...です。」のように、先に反対の考えを認めておいて「しかし」とさらに有力な自分の考えを述べ打ち消す方法。「例えば...。」と例をあげて具体化する方法。このように、筆者は短い文章の中に、たくさんの工夫をちりばめている。そして、事実と自分の考えを区別しながら、インスタント食品の良い点と問題点の両面を挙げ、それぞれの理由や根拠を明確にして論を展開しているのである。これらの点も児童にとっては大変参考になり、自分の文章に生かせる点である。

このように、教材文の読み取りの学習を生かして、自分の考えを明確にして説得力のある文章を書く力につなげ、さらにディベートを行い、状況を判断しながらわかりやすく話す力、自分の考えと比べながら聞く力、感想や意見をまとめる力と、すべての言語活動が密接につながった学習活動をめざしている。

本学級の児童は、以前から特別活動の研究の一環として話す力を養うために全校集会や朝の会でスピーチに取り組んでいるので、自然に人前で話すことは徐々にできるようになってきた。しかし、まだまだ相手意識・目的意識が薄く、声が小さかったり、説明不足であったりすることが多い。その力をさらにつけるためにも、この学習を有効に生かしたいと思っている。

【関心・意欲・態度】

ディベートについては、2学期に一度体験したが、大変意欲的に取り組み、学習後も「楽しかった。」「またやりたい。」という感想をまとめていた。これは、ディベートのもつゲーム的な面白さに惹かれたためであろう。しかし一方で、上に挙げたようにすべての言語活動が必要となってくる難しさも痛感したようである。「資料を自分のものとして読みこなすことが大切だ。」「説得力のある文章が書けるようになりたい。」「自信を持って話すことがみんなをひきつける。」このような反省をもとに、今回の学習では、一人一人がさらに自分にとって明確な目標を持って取り組んでくれることと思う。

【表現】

(略)

【理解】

(略)

【言語事項】

(略)

最後にディベートの面白さに、チームワークを挙げておきたい。自分のつけた力がチームのために生かされ協力できる楽しさは最高である。「次は、さらにパワーアップしてもう一度やりたい！」児童が、このような気持ちにまで高まるような授業を目指したい。

7 指導計画 全 14 時間 (本時 12 / 14)

次	学習過程	時	学 習 活 動	学習形態	指 導 上 の 留 意 点 ・ 個 を 生 か す 手 だ て	評 価
第 一 次	つ か む	2	教材との出会いと学習の見通し 題名読みをする。 範読を聞き、一言感想を書く。 新出漢字・難語句の学習をする。 音読練習をする。 学習の見通しを持つ。	個 別 一 斉 一 斉 個 別 個 別 個 別 一 斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題名から想像できることを話し合わせ、自分たちにとっていかにインスタント食品が深くかわっているかということに気づかせる。 ・ 文脈に即して難語句の意味をとらえられるようにする。 ・ 前回のディベートの学習を振り返り、表現力の面からさらにどんな力をつけたいか明確にさせ、教材文の読み取りを生かすことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の流れや内容を知り、単元の見通しを持っている。(関・意・態) ・ 文脈に即した語句の意味をとらえている。(言語)
第 二 次	深 め る	3	ひとり学習 相互学習 段落ごとの要点をまとめながら、文章構成を探る。 説得力のある文章にするための筆者の表現の工夫を見つける。 筆者の考えをまとめ、自分の考えと比べる。	個 別 一 斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大事な言葉や文頭・文末表現、接続詞にサイドラインを引きながら、中心文 要点をとらえることができるようにさせる。 ・ 表現の工夫や文章構成から、説得力のある文章を書くために参考になることを見つけさせる。 ・ 「インスタント食品」について筆者が考えるよさや問題点について確認し、自分の考えと比べさせる。 ・ 相互学習で一人一人の読みを交流し合い、友達の考えと比べながら、理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読みのめあてを持ち、自分の表現に生かすためにねばり強く読もうとしている。(関・意・態) ・ 要点や文章構成を考えながら、筆者の考えを正確に読み取っている。 (読む・言語)
第 三 次	ま と め る	1	相互学習 「インスタント食品は積極的に利用すべきである」という論題について、賛成か反対か自分の立場を決める。 話し合いにより、自分の立場を明確にし、意見を文章にまとめる。	一 斉 個 別	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文・自分の経験や知識から考えさせる。 ・ 理由をカードに書き、賛成・反対に分けて黒板に貼る。 ・ 話し合いをすることにより、友達の意見と比べながら、立場をはっきりさせるようにする。 ・ 途中で意見が変わった場合は立場の変更しても良いことを知らせる。 ・ 最後に、自分の意見を理由とその根拠をはっきり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の立場を明確にするために、積極的に話し合いに参加しようとしている。 (関・意・態)

					りさせてカードに書き、次からのグループ学習で主体的に取り組めるようにする。	
第 四 次	広 げ る	5	<p>ディベート準備 グループを作り、意見を文章構成表にまとめる。</p> <p>取材や調査活動を行いさらに情報を集めて、意見を文章構成表にまとめる。</p> <p>今回のディベートのルールを確認する。</p> <p>文章構成表をもとに、提案原稿を書く。</p> <p>わかりやすく話せるように練習する。</p> <p>代表者を決め、役割分担をする。</p> <p>審判・司会・計時・黒板担当を決める。</p>	<p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>一 斉</p> <p>個 別</p> <p>個 別</p> <p>グループ</p> <p>一 斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カードを持ち寄り、文章構成表に整理させる。 ・ 理由とその根拠をカードに書き貼ることで、グループの中で一人一人の意見を大切にしながら操作し、まとめやすくする。 ・ 理由は一文に要約したものを、根拠は発表の時そのまま読めるように書かせる。 ・ 情報収集の手だてとしては、本 インタビュー インターネット テレビや新聞 生活体験 アンケートなどが考えられるが、いずれの方法でも自分の理解の範囲で十分扱いきれるものであるように、留意させたり援助したりする。 ・ 今回のディベートは、よりわかりやすく説得力のある発表ができるようになるために、形式やルール、判定に改善を加えたことを知らせ、意識させる。 ・ 発表原稿の書き方を指導し、教材文の読み取りで学習した表現の工夫や話の進め方などを積極的に使わせる。 ・ 全員が立論 か立論 のどちらか一方の原稿を書き、後で代表を選ばせる。時間の余った児童には両方とも書いてみるように勧める。 ・ なるべく3分いっぱい話せるように努力させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲的に調べ、集めた情報を分類・整理している。 (関・意・態) ・ 自分の立場を明確にして、その理由や考えを文章にまとめることができる。 (書く)

第 五 次	広 げ る	3 (本時 1/3)	<p>ディベート大会 「インスタント食品は積極的に利用すべきである」という論題でディベートを行う。(2回)</p> <p>学習のまとめをする。</p>	一 斉 個 別	<ul style="list-style-type: none"> ・ メモをとりながら聞かせる。 ・ 話す力をつけるために、相手意識を持たせ、学習形態を工夫する。 ・ ルールや判定の観点について確認する。 ・ クラス全員が役割を持ち、積極的に参加できるようにする。 ・ 教師はアドバイザーとして、要所所所的確に助言できるように心がける。 ・ 判定だけに目を向けるのではなく、それぞれの良かった点や次回もっと工夫してみたい点などをまとめ発表させることにより、意欲を高める。 ・ 学習をふり返り、めあてに向かってどれくらい迫れたか、そのための手だてや成果・課題について自分なりにまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の役割を自覚し、積極的にディベートに参加しようとしている。 (関・意・態) ・ 自分たちの考えをわかりやすく話したり、相手の考えをしっかりと聞き取ったりすることができる。 (話す・聞く)
第 6 次	生 か す	△ 福井っ 子タイ	身近な生活の中から論題を設定し、ディベートを行う。	個 別 グルー プ 一 斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を生かして、論題の設定・準備を行い、他学年にも見てもらうことを励みに取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の役割を自覚し、協力してディベート発表を成功させようとする。 (関・意・態)

(関・意・態) 国語の関心・意欲・態度 (話す・聞く) 話す力・聞く力 (書く) 書く力 (読む) 読む力 (言語) 言語についての知識・理解・技能

8 本時の目標

自分の役割を自覚し積極的にディベートに参加する。(関心・意欲・態度)

自分の立場や役割を自覚し、協力してディベートを行い、話す力・聞く力を高める。(話す・聞く)

9 本時の展開

過程	学 習 活 動	形 態	個 を 生 か す 手 だ て ・ 指 導 上 の 留 意 点	評 価 ・ 備 考
つ か む	1 本時のめあてを知る。	一 斉	・ ディベートのルールや判定の観点について確認し、心構えをさせる。	【機器の準備】 【ストップウォッチ】 【掲示図】
	2 役割の紹介をする。	一 斉	・ 試合前の心境をつけさせる。 ・ 後でふり返りに用いるため、VTRで録画する。	
深 め る	3 立論を発表する。 賛成派側第1立論・質疑応答 反対派側第1立論・質疑応答 賛成派側第2立論・質疑応答 反対派側第2立論・質疑応答	一 斉	・ 相手意識を持って話させる。 ・ は、教科書の本文を活用させる。 ・ は、生活経験や独自の調査から考えた意見を図表などをうまく活用して発表させる。 ・ メモをとりながら、自分の考えと比べて聞かせる。 ・ 質問は、相手側からでも審判からでもできる。その際、質問者は自分の考えは述べず、反論については、結論の中で言うように留意させる。	【ワークシート】 ・ 自分の役割を自覚し積極的にディベートに参加しているか。(関・意・態) 観察 ・ 自分たちの考えを相手意識を持ってわかりやすく話せているか。(話す・聞く) 観察 ・ 相手の考えをメモをとりながら、しっかりと聞き取れているか。(話す・聞く) 観察 ワークシート
	4 グループごとに結論をまとめる。(作戦タイム)	グループ	・ メモを活用し集約して、「最も訴えたいこと」を強調させる。 ・ 判定の際には、私情をはさまずに「理由や根拠が明らかであるか」「話し方に説得力があるか」といった観点で判定を行わせるようにする。	
	5 結論を発表する。 反対派側結論 賛成派側結論	一 斉		
ま と め る	6 審判が、判定する。	グループ 一 斉	・ 判定の結果だけにこだわらず、それぞれの良かった点や次回もっと工夫したらよい点に目を向けさせ、まとめたり自己評価させたりする。	
	7 本時の学習をふり返り、感想を交流する。	個 別 一 斉		
	8 次時の予告を聞く。			

インスタント食品は、積極的に利用すべきである。